

『時事直言』 No.1599 2023年4月27日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng)

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

アメリカの無理が通れば中国の道理が引っ込む

米ソ冷戦の最中の1972年2月21日、アメリカのニクソン大統領とキッシンジャー国務長官が中国を訪問、毛沢東国家主席と周恩来首相との首脳会談が行われ、米中国交回復の基盤が築かれ、7年後1979年1月1日米中平和友好条約が締結された。

米ソ冷戦の最中ソ連の同盟国である中国との国交回復は中ソ分断を狙ったキッシンジャーの戦略であった。

当時中華人民共和国(中共)の軍事力で台湾に追い込まれていた中華民国は国連安全保障常任理事国であり国際的に中国を代表する独立国であったから事実上「中国は二つ」であった。

しかも台湾(中華民国)には米軍基地があり、日本と共にアメリカの対ソ前線基地であった。

ところがキッシンジャー(アメリカ)は中華民国を捨てて人民共和国を「一つの中国」として選んだ。

しかもキッシンジャーと周恩来との間に、「将来時が来たらアメリカはアジアの覇権を中国に渡す用意がある」と言う密約(1972年)まで交わっていた。(2002年リーク)

天才政治家キッシンジャーは50年後の今日を読んでいたのである。

米中平和友好条約の骨子は、「中国は一つ」(台湾の安保理と国連からの除名)、「台湾は中国の一部」、「台湾からの米軍撤退」であり、アメリカと台湾との関係は、従来通りの通商、文化交流等は継続、そして中国は米ソ冷戦中であることを考慮してアメリカの台湾への最小限度の武器等軍事支援を認めたのであった。

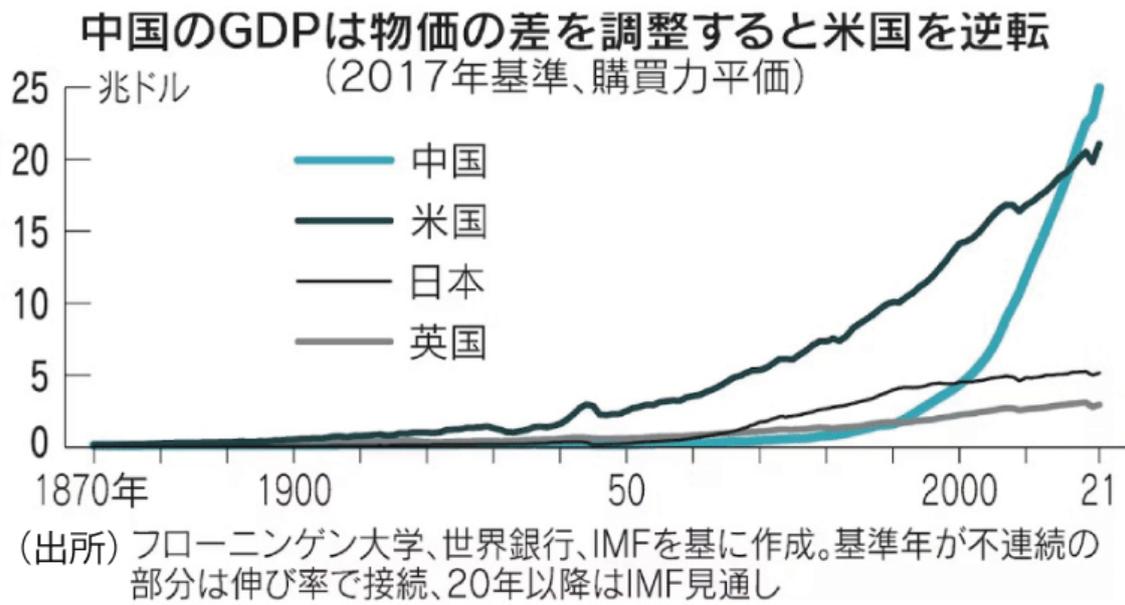
今アメリカは公人(下院議長や親台議員)の訪台、蔡台湾総統の訪米等々、口先では中国は一つと言いながら、事実上台湾を独立国扱いしている。

米中平和友好条約後、中国がアメリカの対ソ冷戦を考慮してアメリカの対台湾軍事支援を許したことをいいことに今やアメリカはそれを逆手に取って対中軍事圧力に悪用している。

アメリカの無理が通って、中国の道理が引っ込んでいく。

アメリカの無理が通るのはアメリカが中国より(カネがモノを言う)経済力と(ドスがモノを言う)軍事力において勝っていると信じられているからである。

(為替ではなく)通貨の真価である購買力平均で米中GDPを比較すれば2017年以来中国の経済力はアメリカを凌駕している。(表参照)



2021年の時点で中国の軍艦数は360隻、アメリカは297隻、今日はさらにその差が拡大している。

アメリカの軍事費は世界一で約100兆円、中国35兆円だが、これは為替レートに基づく数字で購買力平価ではアメリカに接近している。

しかもミサイル技術開発など軍事費に属する予算を宇宙開発費などとして軍事費から外している例が多くある。(中国の軍事費に対する警戒を避ける為)

本来ならアメリカの無理は通らないのに、通っているのは「米中出来レース」に他ならない。

「一体何の為か？」

その答えは「目からウロコのインターネット増田塾」の塾生のみ知ることが出来る。

大好評発売中！増田俊男の小冊子 Vol.132

『眠れる獅子、日本が浮上する！』

現在増田俊男の小冊子 Vol. 132 は**大好評発売中**です。内容は、*「日米安保は日本の安全の要」と言う大嘘を暴くアメリカ*日本に経済主権はなく、日本はまるでアメリカ用の財布！*アメリカが日本に与えた憲法第9条無視の三法改訂を歓迎するアメリカ*戦後一貫として不変のアメリカ対中政治・経済指針*日中は歴史的新時代に向かう*アインシュタインの言葉が蘇る時*日本人だけの特権資産ポートフォリオなどです。

価格は、1冊4,800円(税・送料別)。詳しいご案内、お申込みについてはマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313、HP: <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。